

INGING RACE REPORT

SUPER FORMULA 2020

Round. **7**
 富士スピードウェイ
予選
決勝
12月20日(日)

天候: 晴れ コース状況: ドライ

コロナ過でシーズンの開幕が遅れつつも、関係各所の尽力で全7戦の開催に漕ぎつけたシーズン。岡山大会で坪井、石浦のワンツー・フィニッシュを決めることができたものの、不運に見舞われることも多く出入りの激しいシーズンとなった2020年も、とうとうその短いシーズンの最終戦を迎えるとなった。

これまでにない真冬の12月下旬の開催と、前ラウンドと同様のタイヤウォーマーを使用するなど、異例のシーズンは最終戦まで異例尽くし。土曜のフリー走行は、走り始め気温は5℃と低く、吐息も白い中でセッション。これまでにないコースコンディションの攻略も含め、シーズン最後の戦いに向け寒くも熱いレースウィークがスタートした。

#38 石浦宏明 予選12位 決勝12位

#39 坪井 翔 予選2位 決勝1位



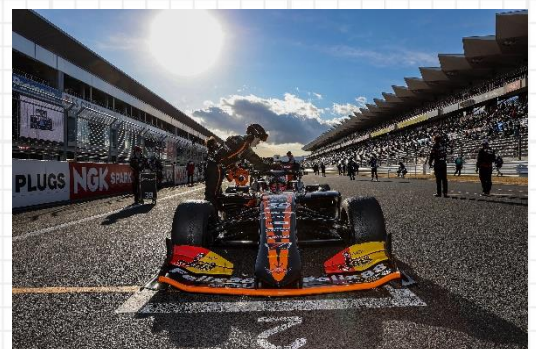
○公式予選

今回もランキング順で2グループに分け予選を実施。Aグループの石浦からタイムアタックを開始した。ユーズドタイヤでコースコンディションを確認するとニュータイヤに履き替え1周目のウォーミングアップから2周目に照準をあわせる。前戦の鈴鹿ラウンドでは、ニュータイヤを2セット投入するシーンも見られたが、路面温度も低いため、じっくり1セットのタイヤを温めアタックしていく方法がセオリーとなった。そして、1分21秒010の5番手でQ2へ進出となる。

Bグループの坪井もユーズドでコースを確認するとピットへ戻りニュータイヤに履き替える。アタックラップ2周目に照準をあわせ、1分20秒838で3番手とQ1を難なく通過した。

Q2 14台が出走。坪井は、ニュータイヤ計測3周目で1分20秒739をマーク。4番手でQ3へ進出と順調。石浦は、Q2で使用するタイヤが想定より温まっていなく、走行しながら熱を入れることもしたが、それだけでは不十分で、1分21秒287の12番手のタイムとなり残念ながらQ3へ進出ならず。

Q3 8台による10分間のセッションがスタートした。坪井は、セッション開始と共にコースイン。1分19秒989と20秒を切る素晴らしいアタックで2番手とフロントロウを獲得した。ポールポジションの16号車には、わずか0.017秒差という悔しい結果ではあったが、とても“乗れている”今季の坪井を象徴する速さを最終戦でも魅せ付けた。



INGING RACE REPORT

SUPER FORMULA 2020

○決勝

低温の為、フォーメーションラップが2周設けられ、そのちグリッドにつくと坪井は得意のスタートを決め、1コーナーをトップで通過。ロングに不安を残していたという坪井だったが前は譲らずに快走。しかし、2位の50号車とは約1秒のギャップとなかなか後続との差を広げることができない。

12番手スタートとなった石浦は、こちらもスタートをうまく決め1周目で8番手まで4つポジションを上げた。

チームの戦略として、SCが入った時のことを考えピットに2台同時に入ることを避けたく、今回は石浦が先に入るという作戦。10周でルーティンのピット作業に向かうクルマもあり、石浦は11周でピットに向かう。ここで残念ながら、左リアタイヤの交換がうまく行かず、20秒以上のタイムロス。15番手でコース復帰と大きくポジションを落とした。その後17周で14番手、22周で14号車を捕らえるなどして13番手。全車ピットインの30週の時点で12番手となり、そのまま10周を走り切り12位でチェッカーを受けた。

坪井は、2位の50号車が早めの16周でピットに向かった為、インカットされることを避け、相手に合わせ翌週の17周でピットに向かった。4位でコース復帰させることに成功、ピット作業も完璧だった。

その後、トップを走っていたピット未消化の1号車と2位につける坪井との差は最大で約30秒。それ以上は離されることなく頑張る坪井。30周を終えようやく1号車がピットに向かい、全車ピットイン後に再び首位を奪還した。その後、2位に上がった65号車の猛追を受けるも、相手がオーバーテイクシステムを使い切っていることも確認しながら走行。0.687秒差と詰められはしたものの落ち着いて逃げ切り、今季2勝目を挙げた。





ドライバー #38 石浦 宏明

「予選では、タイヤの準備が不十分だったこともありQ2で終わってしまいました。しかしペースは良さそうなので、決勝を追い上げようと思っていました。決勝ではスタートが決まり8位に上がり、前のクルマを狙ってと思ったのですが、坪井選手の作戦と分けないといけないうので、ピットに早めに入りました。しかしピット作業のミスがあり20秒以上ロスしてしまいました。しかし、レースは諦めずに最後まで頑張りました。チームとしては、坪井選手の方がピット作業もうまくいき優勝して、自分としては悔しい面もありますが、良い結果で終われて良かったと思っています。」

坪井選手の2勝に比べれば少しにはなりますが、チームランキング2位に貢献できたのではと思っています。来年ピットの位置が前の方へ戻れそうですし、坪井選手おめでとうという素直な気持ちですので、終わりよければ…という感じです。今シーズンも応援ありがとうございました」

ドライバー #39 坪井 翔

「練習から予選は4, 5番手という位置かなと思いつつホンダ勢が速いので、目標はQ3へ、そして平川選手より前のトヨタ勢トップになりたいという気持ちで臨みました。悔しい2位でしたが、ホンダ勢に割って入れて自分のパフォーマンスを発揮できて良い予選でした。決勝は、ロングに不安要素を抱えていて心配でしたが行くしかないという気持ちもあり、またスタートが得意なので、トップに行ければ主導権を握れると思い集中して行きました。スタートでトップにいけたので、そこがハイライトだったかなと思います。」

松下選手の方がストレートが速かったので、SCの想定と松下選手の様子を見ながらピットへも動きました。その作戦もうまく行ったと思います。後半、2位に上がった大湯選手がものすごい勢いで来たのは想定外でしたが、オーバーテイクシステムが無かったのと、富士のポイントは良く知っているので、そこを冷静に処理したことが勝因となりました。岡山での優勝よりもとてもうれしかったです。今季2勝も出来、来季は自分に自信を持ってチャンピオンを獲得できるよう頑張ります。」



監督 立川 祐路

「今シーズン最後のレースで優勝でき、良いカタチで締めくくられて良かったです。ピット作業のミスもありましたが、戦略的にはうまくいき来年につながるレースになったと思います。今年一年を考えると、岡山はワンツー、今回で2勝目も挙げ確かに良かったですが、落としているレースもありもったいなかったですね。坪井が勝てる力を持っていることを証明出来たので、来年はチャンピオン争いをしてもらいたいし、チームとしてもサポートをできる体制をきちんと作っていき、久しぶりのチャンピオンにむけて挑みたいと思います。一年間応援ありがとうございました」



RESULTS**正式決勝結果（上位10台+抜粋）**

Pos	No	Driver	Type	Car	Time/ Behind
1	39	坪井 翔	TOYOTA/TRD 01F	JMS P.MU/CERUMO・INGING	56'13.803
2	65	大湯 都史樹	HONDA/MTEC HR417E	TCS NAKAJIMA RACING	0.687
3	50	松下 信治	HONDA/MTEC HR417E	Buzz Racing with B-Max	1.522
4	1	N.キャシディ	TOYOTA/TRD 01F	VANTELIN TEAM TOM'S	2.268
5	5	山本 尚貴	HONDA/MTEC HR417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6.361
6	20	平川 亮	TOYOTA/TRD 01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	7.550
7	15	笹原 右京	HONDA/MTEC HR417E	TEAM MUGEN	8.541
8	4	S.フェネストラズ	TOYOTA/TRD 01F	KONDO RACING	24.737
9	36	中嶋 一貴	TOYOTA/TRD 01F	VANTELIN TEAM TOM'S	25.360
10	3	山下 健太	TOYOTA/TRD 01F	KONDO RACING	25.785
12	38	石浦 宏明	TOYOTA/TRD 01F	JMS P.MU/CERUMO・INGING	30.496

2020SERIES RANKING

ドライバーズランキングは、坪井が3位、石浦10位。チーム初のワンツーフィニッシュ、坪井は今シーズン唯一の2勝を挙げるといふ快挙を含め、チームランキングを2位で終えた。

また、シーズン後半は来季に活かせる戦績を残すことが出来たことで、再びチーム力を上げ、タイトルを獲得できるよう頑張りたい。2020年もJMS P.MU / CERUMO・INGINGへの応援、ありがとうございました！

**ドライバーズランキング
（2020シーズン 上位5名+抜粋）**

Pos	No	Driver	Point
1	5	山本 尚貴	62
2	20	平川 亮	60
3	39	坪井 翔	50
4	1	N.キャシディ	50
5	16	野尻 智紀	47
10	38	石浦 宏明	27

**チームズランキング
（2020シーズン 上位5チーム）**

Pos	Team	Point
1	VANTELIN TEAM TOM'S	77
2	JMS P.MU/CERUMO・INGING	72
3	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	72
4	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	69
5	TCS NAKAJIMA RACING	57